紀伊國高野橋

る人は考へ出すべき事なり、

〔西遊旅譚 二〕九月(天明三年)廿日、防州岩國に至る、此國山中にして、海は三里を隔つ、北の方は石見の國なり、岩國城下錦川流て橋五ツを懸たり、總長さ百廿間有、錦帶橋(キンタイキヤウ)と名、

〔遊囊賸記 十一〕關戸坂ヲ越テ、關戸ノ入口ヨリ左ヘ山ノ尾ヲ川ニ付テ廿六町入レバ錦帶橋ナリ、錦帶橋俗ニ算盤橋トイフ、御座川ノ末、錦川ニカヽル故ニカク稱スルナリ、其長サ百廿間計、川中ニ石ヲ疊テ四ツノ臺ヲ築テ橋ヲ五段ニカクル、橋裏ヲ仰見レバ雙方ヨリ木ヲ組連テ橋杭ナシ、

〔東遊記 二〕九十九橋

橋の巧をつくして奇妙なるは、周防の岩國の錦帶橋也、

〔本朝俗諺志 一〕錦帶橋

防州岩國の城下に錦帶橋といふあり、川幅凡百七十間、山川にして常は深からず、洪水の時は兩岸に滿る、橋は五橋にかけ、四箇所の橋臺、石垣を菱のかたちに築き、その角を水上水下にあて、水を避、鐵石を以千切銯とし、何ほどの滿水にも破るゝ事なし、岸の兩端二橋は橋杭あり、中の三橋ははし杭なし、行桁を橋臺より段々持出して梯のごとし、板橋羽搔に合、槇はだ込み、そのうへを漆喰を以かためければ、雨もる事なし、五橋ともに大きに反りて風景不斜、山は富士、瀧は那智、橋は錦帶、是日本三ツの矩摸なり、

〔遊囊賸記 十一〕岩國山ハ荒キ其道ト詠ゼシモ、今ハ周岐ノ夷行ニ等シ、錦帶橋ヲ世人此地ノ美談トス、其奇巧實ニ嗟賞スルニ足レリ、錦川ノ渡ヲ過テ山路ヲ踰行ク、

〔夫木和歌抄 二十一 橋〕たかのゝはし　紀伊

〔和爾雅 一下 地理〕紀伊國　高野(タカノ)橋

〔增補地名便覽 紀伊 名所〕御廟(ミベウ)橋(中略)皆高野山の名所なり